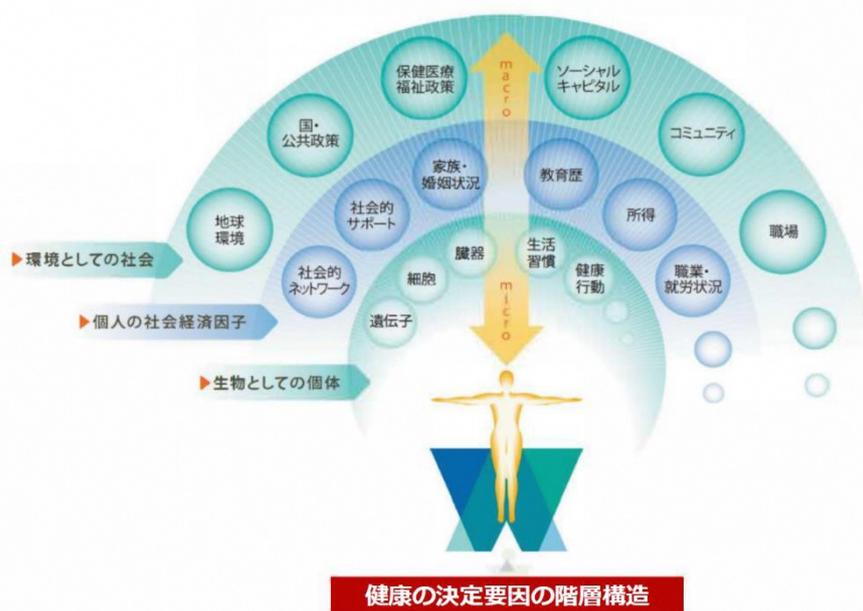


健康とくらしの調査 2019年

地域診断 概要_南部町

JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) は、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的としています。2019年度には、全国の64市町村と共同し、約37万人の高齢者を対象にした調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が、多面的な分析を進めています。

本概要は、JAGESが実施した「健康とくらしの調査 2019」データを用い、介護予防や地域づくりに向けた地域診断の概要をまとめたものです。

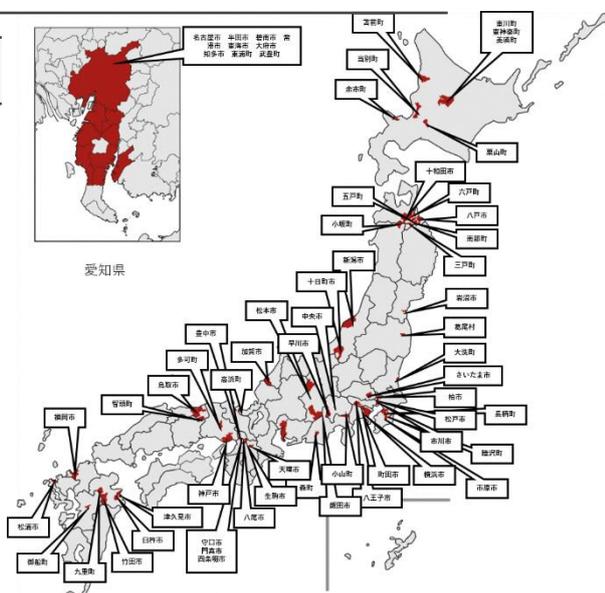


南部町_健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
対象者数	1,500人
調査期間	令和2年1月6日～令和2年1月27日
回収数 (率)	1,060票 (70.7%)
集計数 (率)	1,057票 (70.5%) *年齢無回答や白票などを除いた
調査方法	サンプリング調査

全参加自治体_健康とくらしの調査概要

対象者	調査実施直前で65歳以上のもの
参加数	64市町村 (56保険者)
対象者数	368,982人
配布回収	郵送法、一部訪問調査
調査期間	令和元年11月25日～令和2年2月10日
回収数 (率)	254,396票 (68.9%)
調査方法	全数調査またはサンプリング調査



特徴・強みと課題

目的

他の市町村と比べた、南部町の特徴・強みや課題と思われる指標を明らかにすることを目的に比較分析をしました。

方法

JAGES2019年度調査では、同じ方法（調査票、郵送回収、集計方法）で全国64市町村の要介護認定を受けていない65歳以上を対象に健康状態や社会参加状況などを比較しました。

結果

64市町村と比較して見えてきた強みと課題は以下の通りです。

特徴・強み

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
8	コア:口腔機能低下者割合	南部町	15.5	8	■				1,020	18.0	14.3	24.1
34	重要:BMIが18.5未満の者の割合	南部町	4.6	4	■				937	6.8	3.4	10.9
36	重要:低栄養者割合	南部町	0.9	2	■				917	1.4	0.5	2.3
47	重要:就労していない者の割合	南部町	64.2	10	■				847	69.5	53.0	77.4
50	重要:健診(1年以内)未受診者割合	南部町	30.3	7	■				1,000	36.2	23.3	53.3

- 健康指標のうち、全国64市町村上位2割に入る「口腔機能低下者割合」「低栄養者割合」「BMIが18.5未満の者の割合」「健診（1年以内）未受診者割合」が南部町の特徴・強みと考えられる指標でした。

課題

No	指標名	市町村名	今回	順位	色	前回	改善状況	変化	回答者数	中央値	最小値	最大値
1	コア:幸福感がある者の割合	南部町	40.2	60	■				945	47.6	38.0	54.4
9	コア:残歯数19本以下の者の割合	南部町	66.2	58	■				965	48.4	35.7	76.4
11	コア:閉じこもり者割合	南部町	8.0	59	■				1,021	4.7	2.1	15.5
12	コア:スポーツの会参加者割合	南部町	11.0	62	■				784	25.0	6.1	35.8
13	コア:趣味の会参加者割合	南部町	17.7	61	■				798	30.3	12.6	42.6
14	コア:ボランティア参加者割合	南部町	6.9	63	■				792	13.8	6.7	20.2
15	コア:学習・教養サークル参加者割合	南部町	3.3	62	■				783	8.1	2.8	14.5
16	コア:特技や経験を他者に伝える活動参加者割合	南部町	3.0	62	■				791	5.7	2.0	9.4
23	コア:ソーシャル・キャピタル得点(社会参加)	南部町	30.7	61	■				843	60.1	22.0	86.9
25	コア:ソーシャル・キャピタル得点(助け合い)	南部町	191.9	58	■				1,019	195.6	189.2	199.6

- 健康指標の課題では、全国64市町村の中で下位1割に入り、26町村の中でも下位2割に入る「幸福感がある者の割合」「閉じこもり者割合」がありました。
- 社会参加・交流関連指標では、「スポーツの会参加者割合」「趣味の会参加者割合」「ボランティア参加者割合」「学習・教養サークル参加者割合」「特技や経験を他者に伝える活動参加者割合」「ソーシャル・キャピタル得点(社会参加、助け合い)」が全国64市町村の中で下位1割留まり課題です。

まとめ

- 特徴・強みは、「口腔機能低下者割合」「低栄養者割合」「BMIが18.5未満の者の割合」「健診（1年以内）未受診者割合」が少ないことでした。
- 一方、課題は、26町村中で「幸福感がある者」が少なく「閉じこもり者」が多く、社会参加と助け合いが少ないことと考えられます。

特徴・強みや課題と関連する要因

目的

どのような要因が、特徴・強みあるいは課題と関連するのかを明らかにすることを目的に分析しました。

方法

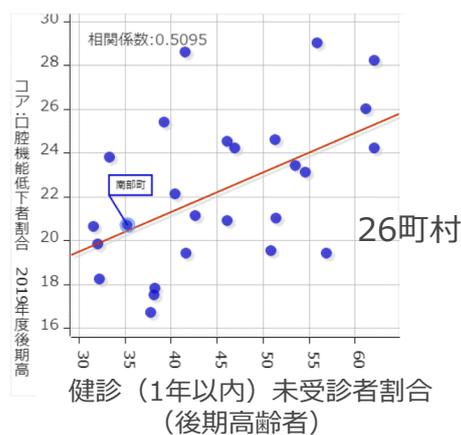
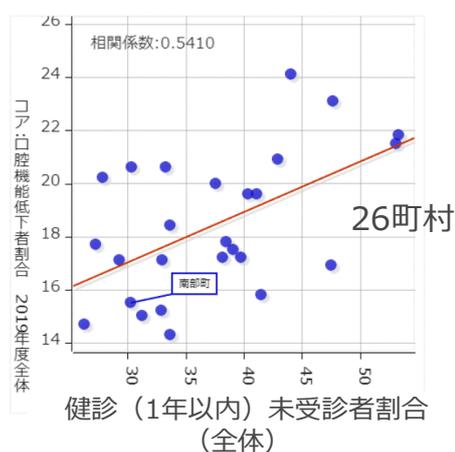
JAGES2019年度調査に参加した64市町村のデータを用いて、指標との相関が強い要因を探りました。

結果

特徴・強みや課題と関連する要因は以下のようなものがありました。

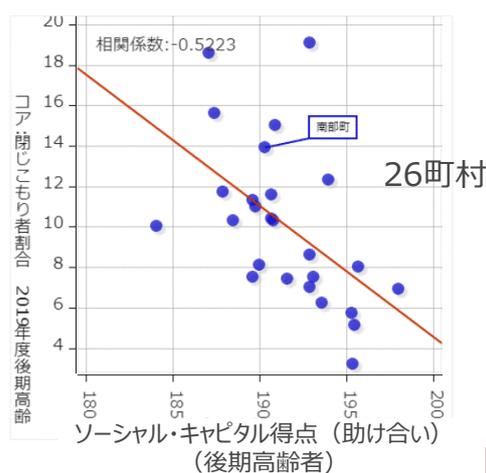
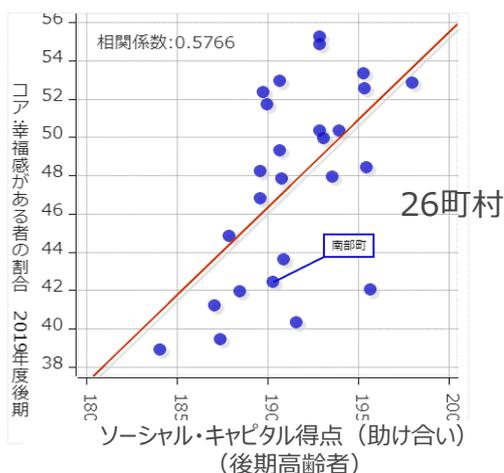
1. 健診（1年以内）受診者が多い町村は口腔機能低下者が少ない。

- 年齢の影響を考慮して、後期高齢者に限定しても、健診（1年以内）未受診者割合が少ない町村は口腔機能低下者が少ないという相関が見られました（下図参照）。
- 健診（1年以内）受診者が多いことが、南部町の特徴・強みである口腔機能低下者が少ない一因と考えられるので、これらを維持するために、引き続き健診（1年以内）受診者を高い水準で維持することが重要と考えられます。



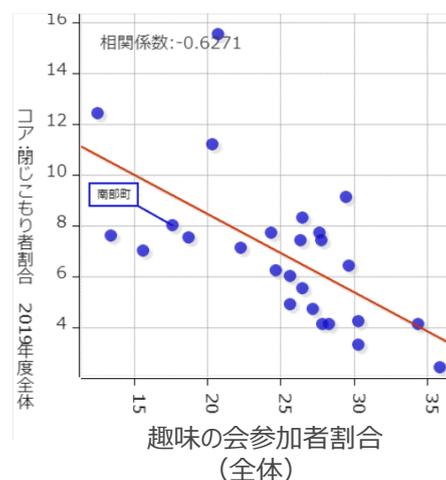
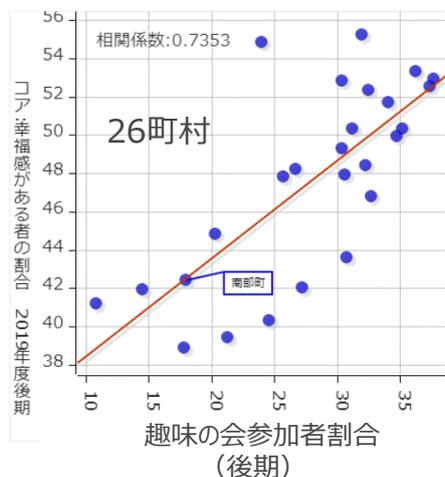
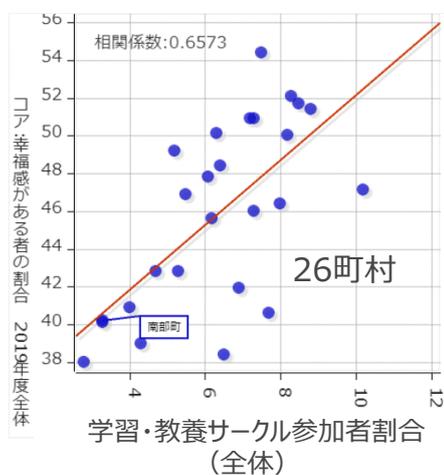
2. 幸福感と閉じこもりは、助け合いと関連する

- 「ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）」は、26町村の中で南部町が下位1割に入る課題です。
- ソーシャル・キャピタル得点（助け合い）とは、情緒的サポート受領（心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる）者の割合や手段的サポート（看病や世話をしてくれる〔受領〕 / 〔提供〕してあげる人がいる）の割合の3つのサポート指標を組み合わせたものです。
- 助け合いが多いほど、「幸福感」が多く、「閉じこもり者」が少ないという相関が見られます（下図参照）。



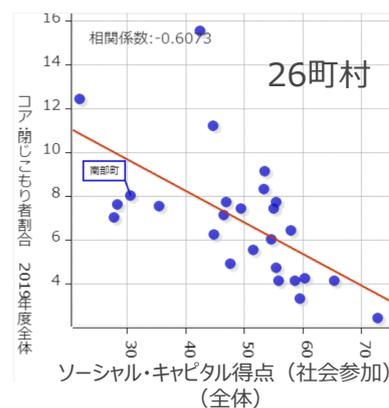
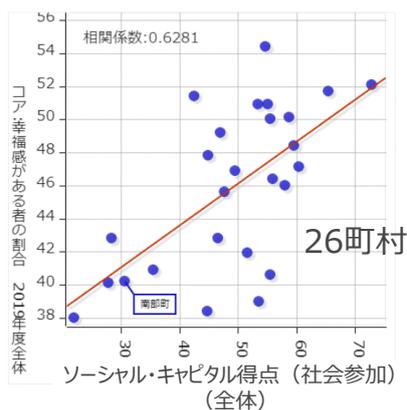
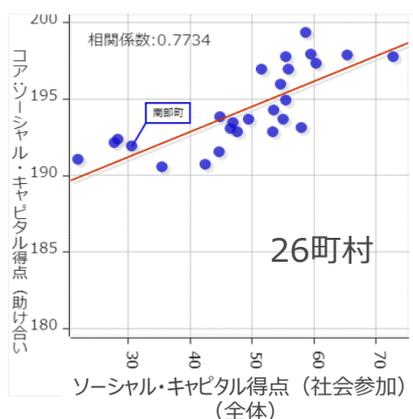
3. 幸福感と閉じこもりに学習・教養サークルや趣味の会参加も関連する

- 「学習・教養サークル参加者割合」「趣味の会参加者割合」は、26町村の中で南部町が下位1割に入る課題です。
- 学習・教養サークルや趣味の会参加が多いほど、「幸福感」が多く、「閉じこもり者」が少ないという相関が見られます（下図参照）。



4. 社会参加と助け合いが少ない町村で幸福感がある者が少なく、閉じこもり者が多い

- ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）とはスポーツ、趣味、ボランティア、学習・教養、特技や経験を他者に伝える活動の参加者割合の指標を組み合わせたものです。
- 社会参加と助け合いは相互に関連し、これらが低い町村では、幸福感が低く、閉じこもり者の割合が高いという相関が見られます（下図参照）。
- これらの相関から、社会参加を増やすことで、助け合いが高くなり、その結果、南部町の課題である幸福感、閉じこもりの改善が期待できると考えられます。



まとめ

- 南部町の強みである口腔機能低下者の少なさと健診受診者割合の高さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望まれます。
- 南部町は、幸福感が低く、閉じこもり者が多いという健康課題があり、やはり低位の指標であった、学習・教養サークルや趣味の会参加、ソーシャル・キャピタル（社会参加、助け合い）得点、などと相関を認めました。
- 「社会参加」を増やすことが「助け合い」を増やし、それによって「閉じこもり者」が減り「幸福感がある者」が増える可能性が示唆されました。

市町村内比較から探る重点支援対象地域

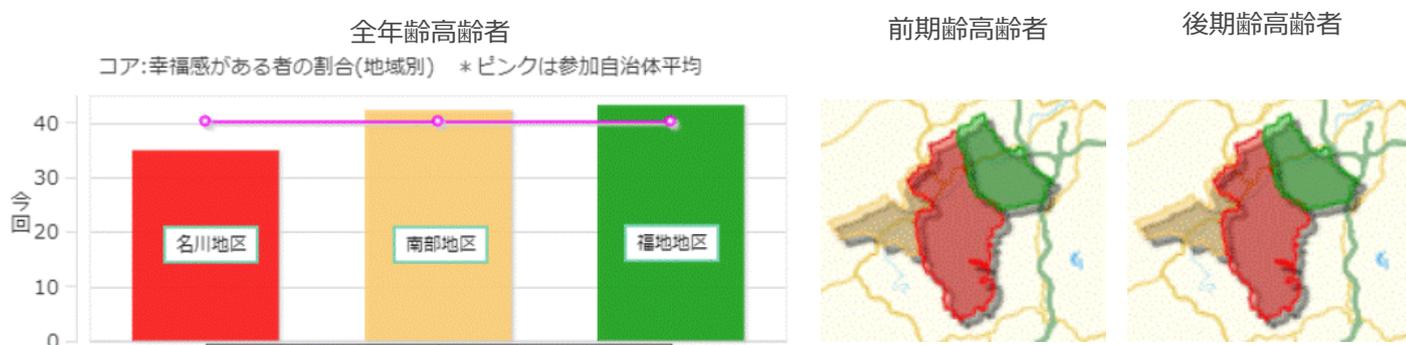
目的 課題だと分かった指標について、南部町内の小地域のうち、良い地域と改善の余地が大きい重点支援対象地域を明らかにすることを目的としました。

方法 自治体内小地域別データを用いて、比較しました。

結果 自治体内で、良い地域と改善の余地が大きな地域を比較評価した結果は以下の通りです。

1. 幸福感がある者の割合の小地域比較

- 幸福感がある者の割合には、35.0～43.2%の小地域間格差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期・後期高齢者ともに名川地区でした。



2. 閉じこもり者割合の小地域比較

- 物忘れが多い者の割合には、5.8～9.4%の小地域間格差がありました。
- 重点支援対象地域は、前期高齢者では、福地地区、後期高齢者では、名川地区でした。



まとめ

- 幸福感がある者が少ない、閉じこもり者割合が高いという南部町の健康課題について、町内に1.2～1.6倍程度の小地域間格差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかりました。2つ以上の重点支援対象地域となったのは、名川地区でした。

市町村内比較から探る改善の手がかり

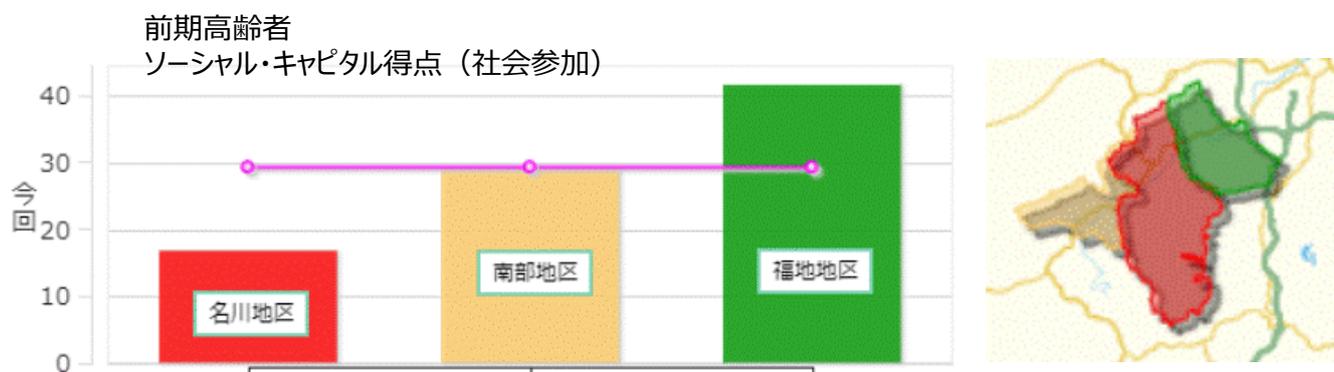
目的 多市町村間比較と相関分析で、課題であるとわかった指標と高い相関を示した社会参加・交流などの指標（p3,4参照）について、市町村内の小地域のうち、改善の余地が大きな地域と良い地域とを比較し、手がかりを得ることを目的としました。

方法 市町村内小地域別データを用いて、社会参加・交流指標について比較しました。

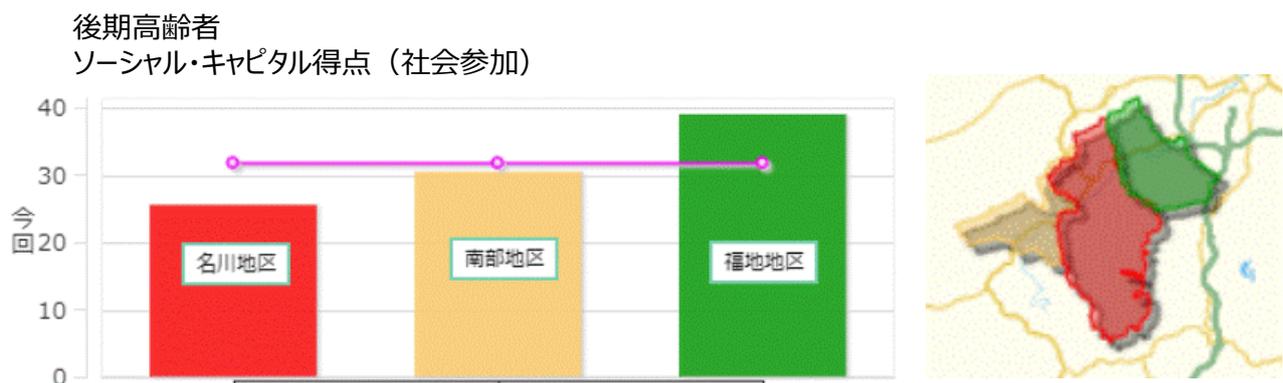
結果 市町村内で、重点支援すべき、改善の余地が大きな地域と、手がかりが得られそうな良い地域は、以下の通りです。

1. ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）の重点対象地域と手がかりが得られそうな地域は？

- ・ ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）は、前期高齢者に限定しても、16.8～41.7点の小地域間格差がありました。
- ・ 前期高齢者の重点支援対象地域は、名川地区（16.8点）でした。
- ・ 手がかりが得られそうな地域は、福地地区（41.7点）でした。

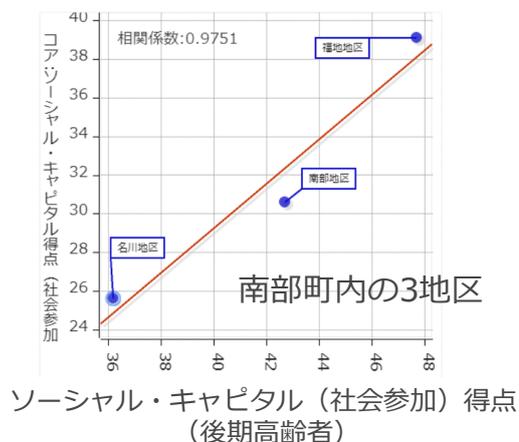
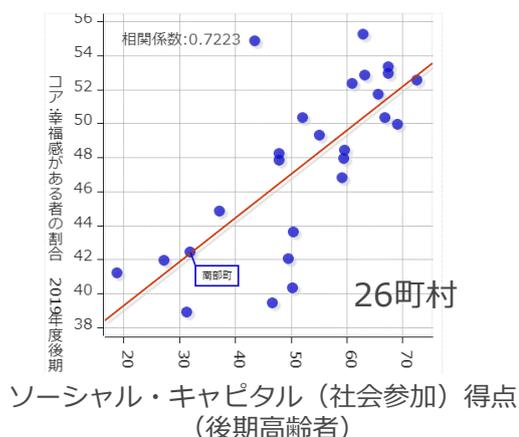


- ・ ソーシャル・キャピタル得点（社会参加）は、後期高齢者に限定しても、16.8～41.7点の小地域間格差がありました。
- ・ 後期高齢者の重点支援対象地域は、名川地区（25.6点）でした。
- ・ 手がかりが得られそうな地域は、福地地区（39.1点）でした。



2. ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が高いまちで幸福感がある者が多い

- 26町村（左図）、南部町内の後期高齢者（右図）でも、ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が高いまちで幸福感が高い者の割合が高いです。



3. グループ活動への参加意向がある者は3割以上

- 「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか」という問いに「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は、南部町は33.9%でした。

44	重要:グループ活動へ参加意向がある者の割合	南部町	48.4	56	■			891	53.9	44.4	63.0
45	重要:グループ活動(企画・運営)へ参加意向がある者の割合	南部町	33.9	52	■			882	38.1	28.5	50.2

- 前期高齢者で、ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が低く重点支援対象地域とされた名川地区（32.9%）の回答者が、参加意向を示していました。
- 後期高齢者で、ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が低く重点支援対象地域とされた名川地区（22.0%）の回答者が、参加意向を示していました。
- このような人たちに集まっただき、まちづくりの重要性ややりたいことなどを話し合ってもらえば、社会参加などのグループ活動が増え、助け合いも増えて、閉じこもり者が少なく、幸福感が高い人が多い南部町づくりを進められると期待できます。



まとめ

- ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が高いまちで幸福感がある者が多いことから、健康課題の克服のための手ごかりは、社会参加者が多い福地地区から得られると期待できます。
- グループ活動の企画・運営に参加意向を示す高齢者が3割いました。

南部町の地域診断 概要 2019

JAGES「健康とくらしの調査2019」に参加した63市町村を比較評価した結果、以下のことがわかりました。

1 市町村間比較から見る特徴・強みと課題

- 特徴・強みは、「口腔機能低下者割合」「低栄養者割合」「BMIが18.5未満の者の割合」「健診（1年以内）未受診者割合」が少ないことでした。
- 一方、課題は、26町村の中で「幸福感がある者」が少なく「閉じこもり者」が多く、社会参加と助け合いが少ないことと考えられます。

2 特徴・強みや課題と関連する要因

- 南部町の強みである口腔機能低下者割合の少なさと健診（1年以内）受診者割合の高さが関連していると考えられました。引き続き高い水準の維持が望まれます。
- 26町村の中では、南部町は、幸福感が低く、閉じこもり者が多いという健康課題があり、やはり低位の指標であった、学習・教養サークルや趣味の会参加、ソーシャル・キャピタル（社会参加、助け合い）得点、などと相関を認めました。
- 「社会参加」を増やすことが助け合いを増やし、それによって「閉じこもり者」が減り「幸福感がある者」が増える可能性が示唆されました。

3 市町村内比較から探る重点対象地域

- 幸福感がある者が少ない、閉じこもり者割合が高いという南部町の健康課題について、町内に1.2～1.6倍程度の小地域間格差があることがわかりました。
- 重点支援をすべき地域は、指標と前期・後期高齢者で異なることがわかりました。2つ以上の重点支援対象地域となったのは、名川地区でした。

4 市町村内比較から探る重点対象地域改善の手がかり

- ソーシャル・キャピタル（社会参加）得点が高いまちで幸福感がある者が多いことから、健康課題の克服のための手がかりは、社会参加者が多い地域から得られると期待できます。
- グループ活動の企画・運営に参加意向を示す高齢者が3割いました。このような人たちに集まっていただき、まちづくりの重要性ややりたいことなどを話し合ってもらえば、社会参加などのグループ活動が増え、助け合いも増えて、閉じこもり者が少なく、幸福感が高い人が多い南部町づくりを進められると期待できます。